

学校訪問記〈特色ある教育を行う学校〉

自由・自主・自立・個人個性の尊重

世界に羽ばたく人材の育成

学校法人羽衣学園
羽衣学園中学校・高等学校

羽衣学園中学校・高等学校

大阪府南部の高石市に位置する東羽衣駅・羽衣駅の両駅から徒歩4分という利便性のよい場所に羽衣学園中学校・高等学校の校舎があります。

学校法人羽衣学園は、大正12年、新しい女子教育の理想を胸に、海外留学から帰国した島村育人先生に共鳴する本山彦一氏（毎日新聞社主）、高石真五郎氏、外山捨造氏をはじめとする数氏の支持と後援により誕生した羽衣高等学校を前身としています。

昭和22年に学校教育法に基づき、羽衣学園中学校を発足し、翌23年に羽衣学園高等学校が発足しました。昭和26年に学校法人羽衣学園に組織変更し、平成14年に羽衣国際大学を開校しました。以来、大学、高等学校、中学校を擁する地域密着型の学園として発展し、24年には学園創立90周年を迎え、翌25年には男女共学化を行い、新たな学園の一步を踏み出しています。

建学の精神は、「自由・自主・自律・個性尊重の人間教育」です。これはそれぞれ、時代の常識を疑い偏見や臆断から自由であること、常に自主的にものごとに組み組み考ること、謙虚さを持つて自らを律すること、自ら同様

他者の個性を尊重することを意味し、学園の「人間教育」の原点となっています。



90周年記念棟

【男女共学化】

平成24年の90周年を機に行なった改革が男女共学化です。少子化や男女雇用機会均等法の社会への浸透などにより、周りの競合校が次々と共学化していく中、25年に男女共学化に舵を切りました。女子校時代の後半は受験者数・入学者数ともに大きく落ち込み、この機会を逃したら次はないという思いで共学化を決定しました。しかし翌

年度から共学化に移行することにしたため、内外部に周知する時間が非常に限られていました。保護者説明会や特に中学生を子にもつ保護者からは「女子校だから入学させたのに」という声も聞かれ、また、先生の中からも「慎重に検討すべきではないか」という不安の声もあがりました。しかし、状況

が刻々と変わっていく中、一刻の猶予もならないとスピード重視で改革を行いました。共学化して男子生徒が本当に集まるのかという疑問についても、公立中学の先生や息子をもつ卒業生の母親から「共学化だったら入れたいのに」という声を多く聞いていたことや、付近にライバルとなる中堅レベルの共学校が少なかったことから地域からのニーズはあると予測していました。高校の生徒募集は230人入学を目標としていたところ、1500人をこえる応募、387人の入学があり、結果的に共学化は成功でした。共学初年度の男子は30%程度でしたが、現在では全体の44%まで増加。コースによっては男女比が1・1のところもあり、共学のイメージは定着したと実感しています。

また、生徒が増えたタイミングで教員の募集をかけたところ、「共学になるのであれば羽衣に行きたい」というモチベーションの高い先生が多く集まりました。共学化してから生徒募集などが堅調に推移しているのも、以前から

いらした先生と新しい先生の強力タッグのおかげでもあります。

【ICTを特長とする施設】

平成26年には男女共学化と共に、創立90周年記念事業として、大規模な校舎整備計画に着手しました。既存建物の耐震工事を進める一方でICT化を進めるべく、全教室にプロジェクター・ホワイトボードを設けるとともに、新校舎にICTルームを設置しました。ICTルームは外から見えるガラス張りの作りで机・椅子を自由に配置でき、アクティブラーニングや調べ学習に利用できます。ICT機器を導入・整備した際は全国から見学に来る学校が多くなりました。

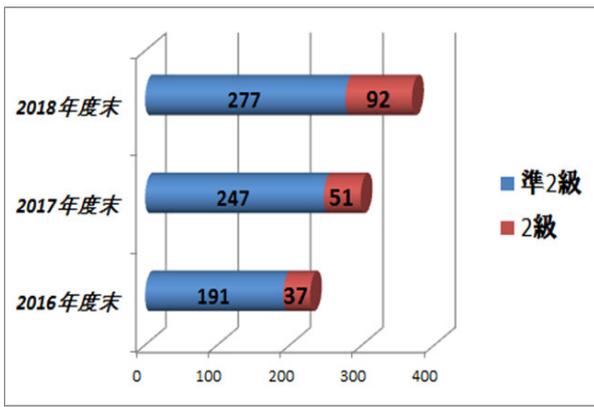


椅子を自由に配置できるICTルーム

【英語教育】

女子校時代から「英語の羽衣」と呼ばれるくらい英語教育に力を入れてきたこともあり、その伝統は共学化され

た現在も守られています。各コースにおける英語の授業数は他校と比べても多く、それ以外にも春・夏に希望者を対象に行われる海外研修、台湾カオストラリアを選択して行く修学旅行など英語に触れる機会が多くあります。一、二週間程度の研修期間では英語を話せるレベルにまではなりません。が、現地の方とコミュニケーションをとった経験が帰国後の英検取得のモチベーションアップにつながっています。全コースが受験する英語検定の合格者数は年々増加しています。



英検準2級以上の合格者数推移

また、各国から各学年・各コースに多くの留学生を受け入れています。海外からの学生を受入れについては、生徒たちも実際に使用する生の英語を近くで学べる意義は大きいと感じています。

す。関西国際空港から近いこともあり、研修や修学旅行で交流のあった学生が立ち寄ることも多く、一度きりの関係で終わらずに、長く交流が続いています。



留学生との交流

【進路へとつなげる3コース制】
共学化を機に従来あったコース制の見直しを行い、新たに3つのコース「文理特進Ⅰ類（Ⅰ類）、文理特進Ⅱ類（Ⅱ類）、進学」に改編し、生徒それぞれの進路・目標に合わせた教育を展開しています。

Ⅰ類コースでは週39時間授業（1日7時間）をベースとして国公立大学、難関私立大学への進学を目指すコースです。2年生からは文理選択と国公立・私立選択によってさらにコースが

分かれ、進路目標に合った授業科目が組み立てられています。全ての授業が終わってから自習で19時頃まで残る生徒が多く、モチベーションの高さがうかがえます。また、Ⅰ類コースは原則指定校推薦等を認めておらず、受験をして大学等に進学することが求められています。こういったことも生徒のモチベーションを上げる要因の一つになっています。

Ⅱ類コースは関関同立・産近甲龍などの難関私立大合格を目指すコースです。7時間目を含む週36時間授業で希望者は8時間目の授業を受けることもできます。また、Ⅱ類コースでは英語教育に力を入れており、オンライン英会話などICTを活用したアクティブラーニングを行っています。

進学コースでは有名私大を中心に生徒の幅広い進路に対応したコースです。AO入試や公募制推薦などの様々な入試に対応した講座や各種検定試験対策の授業・多様な講師によるキャリア教育等バラエティに富んだ授業を展開しています。

平成30年度の大学進学実績は、例年よりも大幅にアップしました。国公立大学合格者数は、初の阪大医学部合格をはじめ過去最高となり、関関同立の合格実績も前年度の2倍以上となったのははじめ、難関大学に続々と合格しています。

また、台湾をはじめ海外の大学に進学する生徒も毎年数名程度おり、生徒が希望する様々な進路に対応する、きめこまかな指導の結果が数値になって表れてきています。

【取材を終えて】

今回の取材では平成25年の共学化のお話を中心に伺いましたが、共学化に際しては校内・校外で様々な声があり、その声には共学化に対して賛成の意見もあれば、反対の意見もありました。馬場校長は双方の声に耳を傾けつつ、「共学化が」失敗したら辞めるつもりだった」とおっしゃっており、改革に対する本気度が伝わってきました。これからの課題についても伺ったところ、「共学化と校舎整備という大きな二つのインパクトのあることを行ったので、この次の目を引くトピックスを考えなくてはいいけない。その一つとして大学進学実績や英検の合格率など目に見えるところの数値を出しつつ、数値をアップするための教育面の充実をはかりたい」と述べられています。

（取材）私学経営情報センター